



## 遠い日の読書の記憶

新井 美佐子（ジェンダー学/国際・地域共生促進コース）

私の長い学生生活の中で唯一電車やバスで通学したのが大学時代でした。皆さんが生まれる前の、スマホなどなかった頃でしたので、通学時間はじめ手持ち無沙汰の時には大学の図書館で借りた本をよく読んでいました。『風と共に去りぬ』のように書名だけは知っていた小説や、面白そうなタイトルのエッセイなど様々な本を、細切れに、時にはつり革につかまって読んだせいもあってか、記憶に残っている本は多くありません。その数少ない1冊が『サンダカン八番娼館』です（サンダカンはマレーシアの都市名）。これは、幕末から大正中期にかけて、貧しさ故に海を渡って春を売った日本人女性（多くは少女）「からゆきさん」を取り上げた、著者の山崎朋子さん曰く「研究とも紀行ともつかない」書物で、1972年に



赤い印がサンダカン。  
九州・天草からサンダカンまで直線距離で約3200 km。

刊行後、映画化もされました。九州の寒村で一人極貧生活を送る老女の人生を通じて、日本史や世界史で習った事象と、個々人の生活とがいかに切り結ぶのかを知り、衝撃を受けたことを覚えています。

この本をきっかけにというわけでは全くなく、大学卒業後、私は大学院に進学し、現在に至るのですが、年々募っていくのは、古今東西を問わず、国策や時代に「翻弄」される人々が抱える理不尽に対する思いへの共感であり、その原点はこの本を初めて読んだ時の感想なのかもしれません。いわゆる恵まれない境遇にある人々に対し、（そうした状況に陥ったのは）自己責任だと即断する風潮が世界的に強まっている気がします。歴史を知る、学ぶ意義の一つは、そのような短絡を防ぐことにあると言えましょう。



新装版（2008年）表紙

分野・専門紹介—File52

## 1200年の歴史を持つ春日大社でのフィールドワーク

分野・専門名：文化人類学

文化人類学研究室では、アフリカや東南アジアでのフィールドワークを通じて、そこに住んでいる人々の社会や文化を研究する学部生と大学院生、また、各国からの留学生が在籍しています。しかし、私たちの研究室には、海外を対象とするだけではなく、「日本」を対象とする学生も多数在籍しています。日本の古代から現代までの様々な歴史書や文学・絵画などから、「日本的」なものの考え方や価値観の形成過程とその独自性を探ることを目指す研究をしています。



今回紹介する授業では、奈良県にある春日大社について勉強しています。春日大社は、藤原氏の繁栄を祈願するため、8世紀に建てられたといわれる神社です。授業は、この春日大社に祀られている春日神について描いた、鎌倉時代の絵巻物『春日権現験記絵』を読むことから始まります。この絵巻は、春日神から受けた加護や靈験の物語を記したもので、現在も残っています。このようなテキストを通して、春日大社の歴史・文化・思想を把握します。

しかしこの授業は、ただテキストを読むだけにはとどまりません。次のステップとして、実際に春日大社を参詣し、「おんまつり」を見学に行きます。「おんまつり」というのは、保延2年（1136）に関白・藤原忠通が五穀豊穡を祈って始めたもので、日本を代表する伝統的なまつりとして現在も毎年12月に行われています。まつりを自分の目で観察し、体感することで、テキストで学んだことをより深く理解することが出来るのです。

（博士後期課程3年・金 陀美）

分野・専門紹介—File53

## たとえばキトンを着てみる—西洋古典学の楽しみ方

分野・専門名：西洋古典学

私たちは先日行われたオープンキャンパスで、古代ギリシアの人々が身につけていた衣服を再現し、来場者の方に試着していただけるコーナーを設けました。貫頭衣に似た「イオニア式キトン」と、胸元のドレープが特徴的な「ドーリス式キトン」の2着です。これまで文学作品や美術作品で幾度となく目にしてきた服ですが、実際に作成し、着てみると「ドーリス式は着付けが必要でひとりで着れない!」「ドレープを綺麗に見せるにはより薄い布のほうがよい」など新たな発見がいくつもありました。

ところで西洋古典学と聞いて、みなさんはどのようなイメージを思い浮かべるでしょうか？ なんだか古めかしくて難しそうで、まるで身近に感じないかもしれません。来場された方からも「世界史に興味を持ったけれど、詳しいことはわからなくて……」といった意見もありました。

でも実は、西洋古典の文化は現代日本の中に驚く程なじんでいるのです。たとえばギリシア神話・ローマ神話の神々の名前は小説や絵画、もしくはゲームやアニメでもよく目にします。他にも子どもの頃に「アトキリギリス」や「金の斧と銀の斧」などの『イソップ寓話集』を読んだことがある方も多いでしょう。毎朝の星占いに登場する12星座にも、それぞれ神話に当てはめられた物語があります。

こうして見てみると「西洋古典学」はしっかりとわたしたちの文化に溶け込んでいるのです。しかし日常生活で触れる神話や物語は、実はギリシア・ローマ文学のほんの一部にすぎません。知らない物語が実はまだまだ埋まっているのです。邦訳もたくさん出ていますので、興味を持たれた方はぜひこれらの作品に触れてみてください。原典にはもっと多彩で、複雑で、奥深い世界が待っています。

（博士前期課程1年・矢越 藍子）



ドーリス式キトンの若者

最近の文学部

### お昼ご飯の楽しみ

東山キャンパス内、文学部から歩いてすぐの距離にランチできる場所が複数あります。ご飯や麺類がよければ食堂が幾つか、サンドイッチとコーヒーはジェンダー・リサーチ・ライブラリのカフェ。パンの持ち帰りはパンだが屋でもできるし、コンビニや売店もいくつか。とはいえ研究室から外に出る暇もなくお弁当をかき込むことが多いこの頃です。(CN)

\*本紙では、名大文学部の多彩な内容を順に紹介していきますが、それまで待てない人は...  
名大文学部のWEBサイト <https://www.hum.nagoya-u.ac.jp/> まで（『月刊名大文学部』のバックナンバーもあります）